

室戸ファミリープログラム

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

体験活動等の機会が減少していることを踏まえ、自然の家の活動プログラムを通して家族が交流できる場をつくり、体験活動等の重要性を広く普及・啓発する。

○ 実施期間

第1弾：令和6年4月27日（土）～4月28日（日） 1泊2日

第2弾：令和6年4月28日（日）～4月29日（月） 1泊2日

第3弾：令和6年5月11日（土）～5月12日（日） 1泊2日

○ 対象者・参加者数

対 象 小学生を含む家族24家族（グループ）90名程度

参加者 第1弾：（宿泊）21家族78名

第2弾：（宿泊）24家族100名

第3弾：（宿泊）7家族21名（第1弾及び第2弾の落選家族向けに設けた事業）

○ 活動プログラム

（第1弾・第2弾）

	1日目		2日目
13:00	受付開始	7:15	朝のつどい
13:30	はじまりの会	7:30	朝食(食堂)
14:00	おもしろ自転車 ☂ペタンク	8:45	退所点検
15:00	茶摘み ☂お茶煎り体験	9:00	移動
16:00	野外炊事(カレー)	9:30	流木クラフト
19:00	移動・休憩	10:30	おわりの会・記念撮影
19:30	焚火開始	11:00	解散
20:30	焚火終了		
21:00	入浴(各部屋)		
22:00	就寝		

(第3弾)

	1日目		2日目
13:00	受付開始	7:15	朝のつどい
13:30	はじまりの会	7:30	朝食(食堂)
14:00	おもしろ自転車 ☂ペタンク	8:45	退所点検
15:00	薪割り体験	9:00	移動
16:00	野外炊事(カレー)	9:30	流木クラフト
19:00	移動・休憩	10:30	おわりの会・記念撮影
19:30	焚火開始	11:00	解散
20:30	焚火終了		
21:00	入浴(各部屋)		
22:00	就寝		

2. 活動の様子

<1日目>

第1弾・第2弾では、メインの活動として茶摘み体験(試飲含む)を行った。摘み取るのは、先の尖った新芽とその下に開いた若葉2~3枚で構成される、「一芯二葉」「一芯三葉」の部分で、必死に探しながらカゴをいっぱいにする参加者の姿があった。摘み取った新茶を使ったお茶の試飲の時間には、「美味しい」「苦い」など様々な声があがった。

第3弾では、メインの活動として野外炊事の際に使用する薪割りを家族ごとに体験してもらった。自分たちで火付け用の細い薪になるように「なた」を使って一生懸命割ったり、大きい薪などはキンドリングクラッカーを用いて掛け声を合わせて割ったりしていた。

野外炊事ではカレー作りを実施した。人数が少ない家族は苦戦する場面もあったが、協力しながらカレー作りを楽しんでいた。火の通りを良くするために細かく野菜を切る工程では「こんなに野菜を薄く切るのか!」という声があがったり、完成したカレーを味わいながら「上手にできた!」「美味しい!」などの声があがった。

夜は焚き火を囲んでゲーム等をして参加者間の交流を深めていた。



(新茶を摘み取るようす)



(摘み取った新茶を手もみしているようす)



(お茶を試飲しているようす)



(なたを使った薪割りのようす)



(キンドリングクラッカーを使った薪割りのようす)



(カレー作りのようす①)



(カレー作りのようす②)



(カレー作りのようす③)



(焚き火のようす)

< 2日目 >

2日目は流木クラフトを実施した。自分好みの流木を選び、3種類の紙やすりを使って根気強く削っていた。オリーブオイルでの仕上げの際は、「色が変わった!」や「ツルツルになった!」などの参加者の声があった。木面によって削り具合に変化をもたせたり、あえてオリーブオイルで磨かずに作品を仕上げたり等、参加者それぞれの作品作りを楽しんでいた。



(流木選び)



(紙やすりで磨くようす)



(ヒートンと紐をつけて完成)

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

(子ども)

- ・ カレー作りが楽しかった。
- ・ 友だちができてうれしかった。
- ・ イチからお茶をつくるのは難しいことがわかった。

(保護者)

- ・ 普段できない体験ができた。
 - ・ 子どもの自主的に動こうとする姿を見ることが出来た。
 - ・ 子ども同士、親同士でコミュニケーションをとることができた。
- ▲ 集合場所が分かりづらかった。
- ▲ 参加しやすいように実施回数を増やしてほしい。
- ▲ 宿泊棟への案内表示を増やしてほしい。

○ 事業の成果

- ・ 参加者から「普段できない活動ができて良かった」等の声があり、プログラムの有用性を実感することができた。
- ・ 初めて会う人とプログラムを通じて交流を深め、新たな交友関係を構築している様子が見ええた。
- ・ 少人数の家族利用では人数によってできない活動も、複数団体集まることで実施が可能となり、利用者の体験の幅が広がった。

○ 事業の課題

- ・ 参加者数に対応するスタッフ数が見合っていなかったため、スタッフの適切な配置を再検討する必要がある。
- ・ 時間に余裕が無いタイミングが生じたため、時間にゆとりをもったプログラム計画を行いたい。
- ・ 野外炊事でカレー作りを行ったが、人数が少ないとご飯の炊き方やカレーの汁が少なくなってしまったため失敗する家族がいた。
- ・ 焚き火に参加したかったが、子どもが小さいため参加できなかったとの声があったため、もう少し時間を早めるなどの対応が必要であると感じた。
- ・ 参加者移動時の誘導人員の適切な配置や、施設内の案内板の設置数を増やす等の対策が必要であると感じた。